



いしかわ版

# 里山づくり ISO



## ポスター交流会

～いしかわ版里山づくりISO取組紹介～

令和4年3月3日（木）

ポスター展示：13:00～17:00

ポスターセッション：13:00～13:30

14:30～15:00



ひゃくまんごくマリンテラス 2階 セミナールーム

（金沢港クルーズターミナル 石川県金沢市無量寺町リー65）



◀ 目 次 ▶

●能美の里山を「守る・深める・活かす」活力ある地域づくりを目指して	・・・	2
[No.3] 能美の里山ファン倶楽部		
●里山里海の環境保全と農地の遊休化防止	・・・	3
[No.30] NPO法人いしかわ農林水産サポートネット		
●「ホクコクの森」づくり	・・・	4
[No.34] 株式会社ホクコク地水		
●とりもどそう河北潟！ 泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水	・・・	5
[No.65] NPO法人河北潟湖沼研究所		
●自然と共生はSDGsの原点	・・・	6
[No.148] おおた農場（渡津蛭保存会）		
●「ホクコクの森」づくり	・・・	7
[No.321] 恵みの郷湖 河北潟と旧花園村の大自然を考える会		

## 能美の里山を「守る・深める・活かす」活力ある地域づくりを目指して

大口 久司、山田 幸（ 能美の里山ファン倶楽部 ）

### 設立の背景、目的

中山間地域における過疎化や高齢化等による、耕作放棄地の増加や山林の荒廃が深刻な問題は、能美市の中山間地域も例外ではありません。このような中で、市民、行政、各種団体、民間の事業者などが協働し、能美のふるさとを「守る・深める・活かす」のキーワードで、活力ある地域づくりを進めるため、平成18年6月に「能美の里山ファン倶楽部」を設立しました。



写真1. 能美の里山景観

### 活動の内容と目標

#### 「産業化研究」

農林産物（山菜、キノコ、ユズ等）の販売、炭・薪の製造、販売  
木材を利用した商品開発、里山ツーリズムの実施 など

#### 「里山コミュニティー」

ガイドハイク、里山イルミネーション等のイベント開催 など

#### 「里山の保全再生」

森づくり活動（枯木や倒木の処理、散策路の整備、希少種の保全）  
休耕田を活用した山菜栽培 など

#### 「環境教育(子ども対象)」 森の保育園、里山自然学校の開催 など



写真2. 森づくり活動

このように、能美市の里山の自然環境を良好な状態に保っていくために、さまざまな取り組みを通じた里山の普及活動を継続し、地域資源である「里山の恵み」や、活動により得られる収入を地域へ還元していくことを目指しています。私たちファン倶楽部にとって、地域経済が循環するこれら事業の「産業化」が最大の目標です。



写真3. 環境教育活動

氏名	会長 大口 久司	所属	能美の里山ファン倶楽部
住所	〒923-1224 能美市和気町い2 1-1		
電話	0761-51-2308	FAX	0761-51-2308
E-mail	info@nominosatoyama.com	HP 等	HP www.nominosatoyama.com IG nominosatoyama FB Nominosatoyama



## 里山里海の環境保全と農地の遊休化防止

上前善之（NPO 法人いしかわ農林水産サポートネット事務局員）

### 目的と目標

平成 21 年に設立した当法人は、農林水産物等の生産やその利活用の支援、環境と調和のとれた里山里海の保全、農山漁村地域が持つ多面的機能の維持と発揮等を通して、県民への理解促進に寄与することを目的として活動しています。

### 〔遊休農地でさつまいも生産に取り組む新規参入企業支援〕

愛知県などで菓子パンなどに使用される餡やクリームなどを製造する企業が志賀町に農業参入しました。西山 I C 近くにペースト加工工場を建設する予定で、R 3 年春から原材料のさつまいも、かぼちやの栽培を遊休農地で開始しました。能登地域では貴重な参入企業であり、関係機関・団体と連携しさつまいも、かぼちや栽培の基本管理について定期的な訪問指導を行い、社員の早期技術向上を支援しています。



さつまいも畑の生育状況の確認

### 〔遊休農地の拡大防止のためのマッチング支援〕

内灘町の民家周辺に残る砂丘畑は、これまで金沢市の園芸農家が借り受け耕作してきましたが、スプリンクラーの散水が歩行者の妨げになる等住民からのクレームなどで撤退をしました。農地の遊休化を避けた地権者から「新たな耕作者を探して欲しい」との要請があり、J A ・農林事務所と共に、6～7月に収穫できる作目を模索して



遊休農地と開花中のラッキョウ畑

いたレンコン農家と地権者とのマッチング調整を行いました。その結果、4名の大規模レンコン農家がラッキョウを栽培するようになり、秋には一面に紫の花が咲き、住民等から綺麗になったとの声が聞かれるようになりました。

### 〔豚熱（CSF）対策支援による里山保全〕

豚熱に対するイノシシへのワクチン埋設と調査活動がマスコミで報じられてから、会員から「当法人としてお手伝い出来ることはないのか」との意見が寄せられました。

そこで関係機関との調整を行い、冬期の活動から参加することになりました。雨天の日が多かったが、早く収束することを願い 10 人（延べ 20 人）の会員が参加しました。



ワクチンの埋設作業

氏名	上前善之・千田昌昭・高山高市	所属	NPO法人いしかわ農林水産サポートネット
住所	〒920-3198 金沢市才田町戊295-1 石川県農林総合研究センター内		
電話	080-2952-4640	FAX	076-257-6844
E-mail	<a href="mailto:kamimaey@pref.ishikawa.lg.jp">kamimaey@pref.ishikawa.lg.jp</a>	HP等	



## 「ホクコクの森」づくり

道下 和夫 (株式会社ホクコク地水)

### 主な活動

森林やそこから生産される木材は再生可能な資源であると同時に、CO2の吸収・貯蔵による温暖化の防止など地球環境の保全に大きな役割を果たしています。株式会社ホクコク地水においても、私たちにできることは何かを考え、「はぐくもう豊かな心 育てよう石川の森 ストップ温暖化」をテーマに森林整備活動を行ってきました。津幡町にある石川県森林公園内の0.54haの土地を「ホクコクの森」と名付け、主に草刈り・支柱建て・溝掘り・植樹などの作業を行っています。この活動は、石川県・(公社)石川の森づくり推進協会の「企業の森づくり活動」として2010年5月にスタートしました。2021年末で12回を重ね、コナラやカエデ、カツラ、ハンノキなど里山に生育する広葉樹を主体に約400本余の樹木を育ててきました。2011年からは「いしかわ版里山づくりISO」の認証を受け、県の支援も頂きながら里山の保全に取り組んできました。また、毎年「石川の森整備活動CO<sub>2</sub>吸収量認証制度」により、森林整備活動の社会貢献度を数値化して認証を受けており、社員の環境保全に対する意識の向上にもつながっています。

### 主な参加者

コロナ禍前は、弊社の社員やその家族に加え、協力会社の社員も参加していました。老若男女問わず、毎年130人ほどで森林整備活動を行っていましたが、現在は密を避けるため、やむを得ず新入社員を中心に約20名ほどで5月、9月に植栽・下草刈り等の活動を行っています。



### これまでの課題と今後の活動

「ホクコクの森」も最初はとて水はけが悪く、木が育つには難しい環境でした。根腐れを起こして木が枯れてしまわないように、溝(排水路)を掘り、水はけを良くしています。また、背の高さ以上の雑草が生い茂るため、1年に2回の草刈りが欠かせませんでした。さらに、広葉樹に多い病虫害のほか、最近ではイノシシなどの動物による折損・掘起しなどの獣害の被害も多くみられます。年を重ねるごとに、「どうしたらより良い生育環境を整えることができるか」を模索し、改良を続けているところです。様々な困難もありますが、自分たちで「森づくり」に取り組むことにより、大人も子供も自然の大切さ・森を育てることの大変さを学ぶことができます。弊社は、環境保全活動を通じて社会に貢献するために、これからもこの活動を続けていきます。



所属	株式会社ホクコク地水		
住所	〒921-8021 石川県金沢市御影町 25 番 1 号		
電話	076-241-7158	FAX	076-243-2422
E-mail		HP 等	<a href="https://www.hokukoku.co.jp/">https://www.hokukoku.co.jp/</a>

## とりもどそう河北潟！ 泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水

川原奈苗・高橋 久・番匠尚子（NPO法人河北潟湖沼研究所）

### 背景と目的

河北潟の環境改善を願って1994年に発足しました。河北潟は石川県で一番広い湖で、ひと昔前まで漁業がおこなわれ潟や周りの水路に生息する魚介類が食べられていました。潟には色々な種類の沈水植物が生え、子どもたちが泳いで遊ぶこともできました。いまの河北潟は、透明度が低く、沈水植物は消失しており、湖岸のゴミも多く、潟に生息する魚は食べられていません。水質は農業基準をクリアできておらず汚濁が進んでいます。たくさんいたヤマトシジミは、河北潟が淡水化されたことで生息できなくなりました。田んぼでは広範囲でネオニコチノイド系農薬等の殺虫剤の空中散布、除草剤が使用されており、農薬の生態系への影響が懸念されます。自然豊かな河北潟を取り戻し、持続的に河北潟から豊かさを享受できる地域となることを目指して活動しています。

### 農業と生きものを守るための取組

田んぼや湿地の生きものの減少、化学肥料や農薬による水質汚濁や生態系への影響などの問題解決に向けて、「生きもの元気米」「七豊米」の生産・販売活動をおこなっています。2020年度の成果としては、生きもの元気米生産量が7.5トンに増えたこと、田んぼの生きもの調査に延べ56人が参加したこと、七豊米の昔ながらの米作りに延べ107人が参加したことがあげられます。



### 河北潟の自然の豊かさを取り戻すための取組

河北潟の再汽水化を視野に入れて河北潟および大野川で水質調査や生物調査をすすめています。湖岸植生が衰退していることからその状況を把握するための湖岸植生調査をおこなっています。成果としては、シンポジウムやセミナーに延べ259人が参加したこと、八郎湖、宍道湖・中海、諫早湾と有明海、湖山池、長良川、霞ヶ浦で取り組む方々と協力して、河北潟総合研究の特集号「閉じられた汽水湖の現状と課題」を発行したことがあげられます。

### 河北潟流域全体を良くするための連携、協働の取組

年に一度開催される河北潟クリーン作戦は大勢の方が参加する地域に根付いた取り組みです。当団体はこの活動を継続させるために働きかけ、実行委員会形式となった現在は事務局を担当し、多くの企業から協賛をいただき運営しています。27年目をむかえた2021年の河北潟クリーン作戦では、コロナ禍にもかかわらず514名が参加し約2.9トンのゴミが河北潟から回収されました。毎年秋には、河北潟で活動する多くの団体と協力して「河北潟自然再生まつり」を開催し、10年目をむかえた2021年は約500名が参加、自然を生かし工夫を凝らした色々なプログラムが展開されました。

氏名	川原奈苗	所属	NPO法人河北潟湖沼研究所
住所	〒929-0342 石川県河北郡津幡町北中条ナ9-9		
電話	076-288-5803	FAX	076-255-6941
E-mail	na.na@amail.plala.or.jp	HP等	<a href="http://kahokugata.sakura.ne.jp/">http://kahokugata.sakura.ne.jp/</a>

## 自然と共生はSDGsの原点

大田 豊（おおた農場）

### 活動の経緯と取組内容

私が脱サラをして、『おおた農場』を始めてから30年になります。始めた当初は想像しておりませんでしたが、2005年の夜9時頃イノシシ対策にパトロールをしていた際、ちょうど当農場に設置している『白山麓渡津蛭の里』の看板を設置している場所から、大日川河川に数千匹のゲンジボタル、田んぼ内に数百匹のヘイケボタルがチカチカと光っている光景に出会いました。その後、昆虫博士として有名な谷幸三先生に奈良県から何度も来県いただき、ホタルの生態について学びました。その知識を生かして『白山麓渡津蛭の里』では毎年6月25日～7月3日頃の期間でホタルの鑑賞会を実施しています。

一方で、昔は田んぼで一般的に見られたヘイケボタルも今日では47都道府県のうち半数にて見られることがなくなっていることを知り、そういった環境でのホタルや水生昆虫といった生物の減少に我々の社会活動や営農が影響を与えているのではないかと考えるようになりました。

そこで、今から14年前（2008年頃）に国の環境モニターとして無農薬での畑作・稲作に取組み始めました。今では稲作を中心に無農薬・無化学肥料3ha、農薬化学肥料7割減8haに規模を拡大しており、今現在でもヘイケボタル、ゲンジボタルだけでなく、トンボやゲンゴロウ、ガムシといった水生昆虫やカワニナ、ヒメタニシ、アマガエルといった多種多様な生物が生息していることが確認されています。また、無農薬・無化学肥料栽培米は「鳥越 渡津蛭米」として米・食味分析鑑定コンクール国際大会で入賞するなど評価されており、農薬化学肥料7割減栽培米である「渡津米」とともにブランド化し、全国に流通しております。

### これからの活動について

2030年を目標にSDGsとして17の目標が設定され、その達成に向けて多様な主体による様々な活動が広がりを見せています。その中でも農業は最も生き物とのつながりを感じられ、自然とどのように共生していくかが重要であると、これまで農業をする中で実感しています。

今後も地球環境の保全につながる無農薬・減農薬の栽培を広めるべく、ホタルの生き物の指標として環境保全への貢献を目的とするNPO法人日本ホタル再生ネットの一員として、ホタルの飛び交う田んぼを守り続けるとともに、その重要性を内外に発信していきたいと考えています。

氏名	大田 豊	所属	おおた農場
住所	〒920-2366 石川県白山市渡津町口の106		
電話	076-254-2198	FAX	076-254-2148
E-mail		HP等	

## 河北潟と小矢部を結ぶ古道、田近越との交流

山口哲夫（恵みの郷湖河北潟と旧花園村の大自然を考える会）

### 1. 活動を始めた背景

田近越古道の復元ボランティア活動は、2019年10月環境省の全国古道100選に選定されたのを機に、小矢部市・津幡町・我々の会など有志ボランティアメンバーは、古道整備と散策して里山を愛でる事で一致し、広く市民町民各位の往来散策が楽しめる姿を想定し活動を始める事にしました。

### 2. 古道の変遷と未来へ

- ① 古道の起点終点 : 地図参照 今町から小矢部五郎丸
- ② 古道の歴史 : 北国街道の間道として幾多の戦に使われた。
- ③ 古道の衰退 : 炭から油のエネルギーの転換、自動車社会により。
- ④ 古道の魅力 : この間道を往来した先人先祖を風土と呼びその人間模様
- ⑤ 古道を未来へ : 歴史を思い過去を巡らせば未来が見える



### 3. 具体的な活動内容

- ① 春・秋の整備と散策活動
  - ・春整備：3月中旬、春散策：4月第一土日何れか。
  - ・秋整備：10月中旬、秋散策：11月中旬の土日また生物の冬眠後。
- ② 会員募集：年中 旧花園地区 および 県内 関心者
- ③ 石川県生活環境部 温暖化・里山対策室 いしかわ版里山づくりISO認証  
里山の森づくり活動：森林再生ボランティア活動等として





### 今後の目標

- ④ 古道整備散策活動の恒常化とそれへの応援団結成
- ⑤ 古道案内及び標識の設置
- ⑥ 古道整備の為の機械器具・道具の整備
- ⑦ 古道沿いの休憩場所およびトイレ・緊急避難場所の設置
- ⑧ 古道駐車場の整備
- ⑨ 整備及び散策時の安全対策の恒常化

### 【お問い合わせ先】

氏名	山口 哲夫	所属	恵みの郷湖河北潟と旧花園村の 大自然を考える会
住所	〒920-0107 石川県金沢市二日市町ト61		
電話	090-6079-3057	FAX	